

隠岐世界ジオパーク 一地すべりとの共生



(株)日本海技術コンサルタンツ
浜崎 晃



世界ジオパーク

- 現在28カ国92地域(国内6地域)
- 洞爺湖有珠山, 糸魚川, 山陰海岸, 島原半島, 室戸に次いで国内6番目の世界ジオパーク認定

隠岐世界ジオパークの位置と範囲



- ◆ 隠岐世界ジオパークの範囲
 - 隠岐諸島の全域
 - 海岸から1kmの海域を含む673km²の範囲
 - 陸域：346km²
 - 海域：327km²





皆様を迎える隠岐のすばらしい風景



隠岐ジオパークの特徴

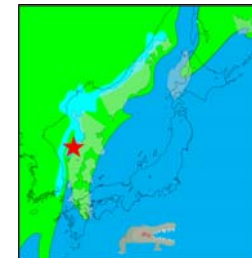


「日本海の孤島が生み出した荘厳な大地と独自の生態系、そして人の営みが織り成す景観」をテーマとする

隠岐の成り立ちと日本海、日本列島との関係



大陸：5,500～5,000万年前



湖：2,600～2,000万年前



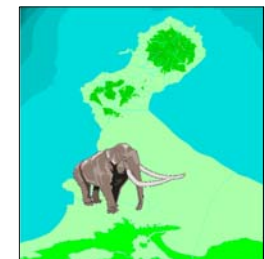
海：1,600万年前



海：1,200万年前



島：600万年前



半島：2万年前

隠岐 2千万年前地層で発見

東アジア最古級 巨大ワニの化石



巨大ワニの化石について解説する河野重敏学芸員—松江市殿町、島根県庁*

マチカネワニの全身骨格図と見つかった部分 (島根県立三瓶自然館提供)

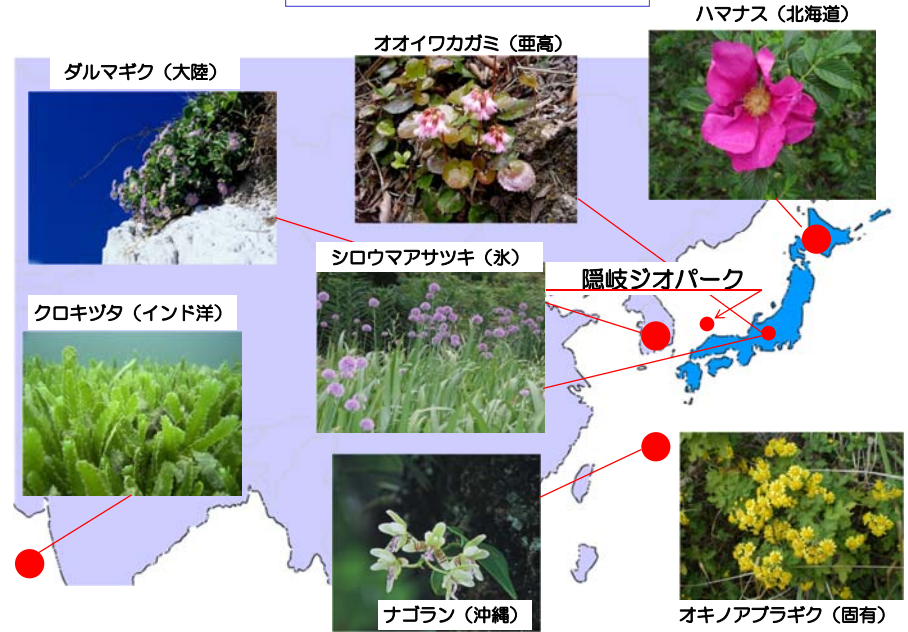


全身骨格図
見つかった部分

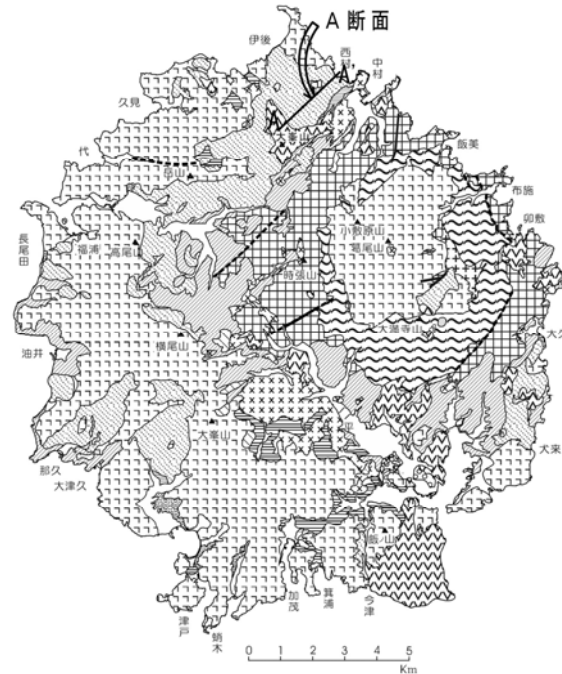
島根県立三瓶自然館(大津、高さ約18m)の骨の大きさを比較して、ワニの骨の大きさを推定していたところ、隠岐の島町の海岸にある約2千万年前の地層から、東アジアでは最古級となる巨大ワニの化石が見つかった。これまでは台湾と発表された。この化石は、骨の前方部分に半球状の窪みがあり、後方部分には突起がある。いずれも哺乳類の骨の形状と異なり、ワニの骨の形状と一致している。ワニの骨の形状と一致している。ワニの骨の形状と一致している。

この化石は、14日から20日まで、県立三瓶自然館で特別展示され、その後、隠岐自然館(隠岐の島町中町)でも展示される。

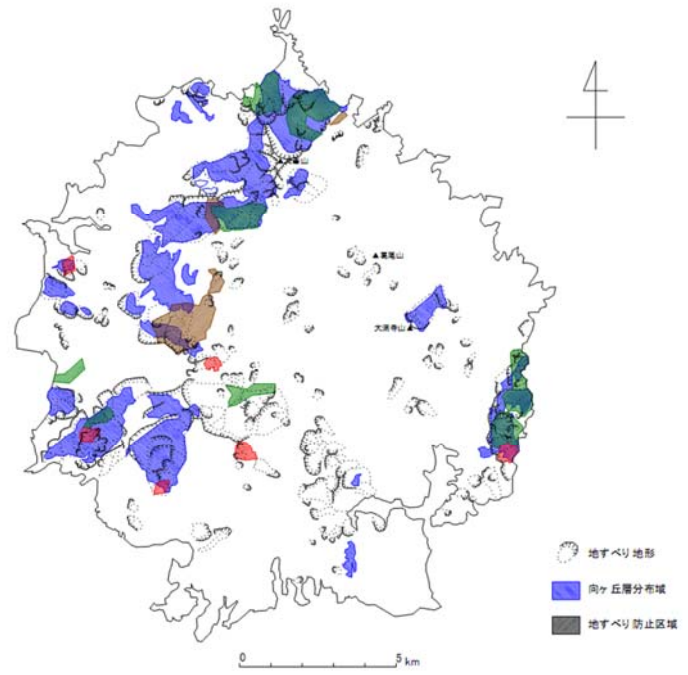
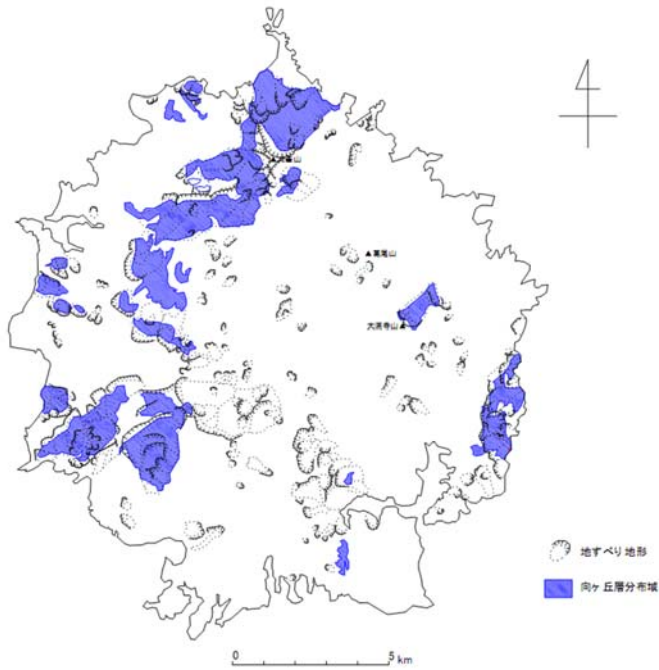
隠岐の不思議な植物分布



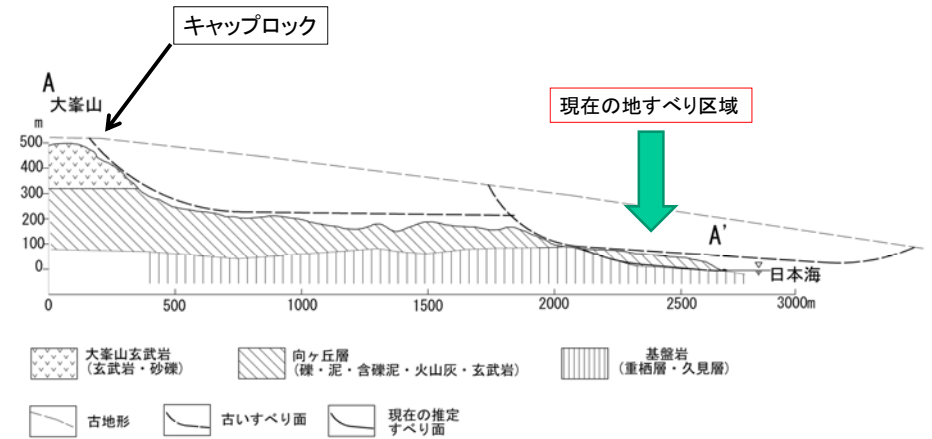
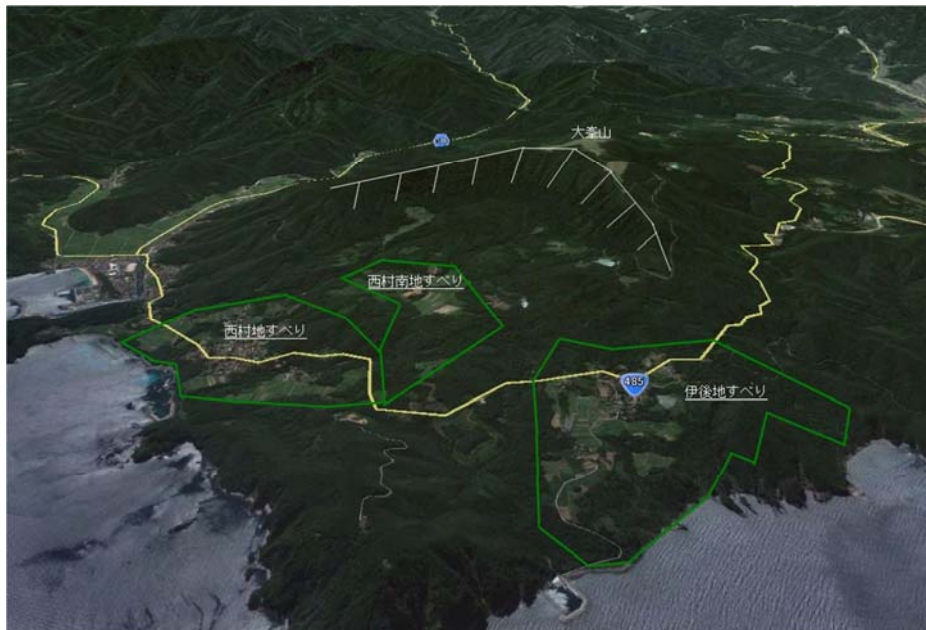
オオイワカガミの分布の標高比較



第四紀	最新世	堆積・沖積・海浜堆積物	□□□□
第四紀	更新世	段丘堆積物	□□□□
		玄武岩類	□□□□
第三紀	鮮新世	玄武岩類	□□□□
		向ヶ丘層	□□□□
		貫入岩(粗面岩)	□□□□
第三紀	中新世	貫入岩(流紋岩)	□□□□
	中中新世	重柄層・葛尾層	□□□□
	新中新世	都方層	□□□□
	中新世	久見層	□□□□
第三紀	白垩紀	郡層	□□□□
		時張山層	□□□□
古第三紀		島後南谷花崗岩	□□□□
中生代	白垩紀	隠岐変成岩類	□□□□
中生代	白垩紀	実在断層	—
		推定断層	---



大峯山北東部の地すべり区域



大峯山北東部の代表的地すべり区域

西村地区地すべり 昭和42年3月31日指定 69.16ha

伊後地区地すべり 昭和42年12月20日指定 86.25ha

農地、家屋および道路の保全が対策事業の目的

第一期工事 水路整備、部分的に横ボーリングによる
地下水排除が主な対策工事

その後、調査技術、解析技術、防止工事施工技術の進歩

第二、三期工事 集水井、杭工、アンカー工などの対策工事

ちなみに、(株)日本海技術コンサルタンツは昭和42年4月隠岐にて創業





昭和45年コア写真



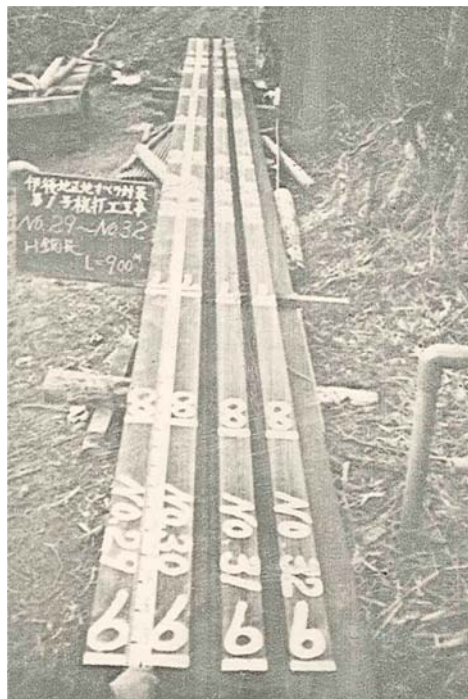
昭和53年コア写真



平成5年コア写真



昭和54年杭施工状況



昭和54年杭材
(H鋼)



昭和54年杭立て込み



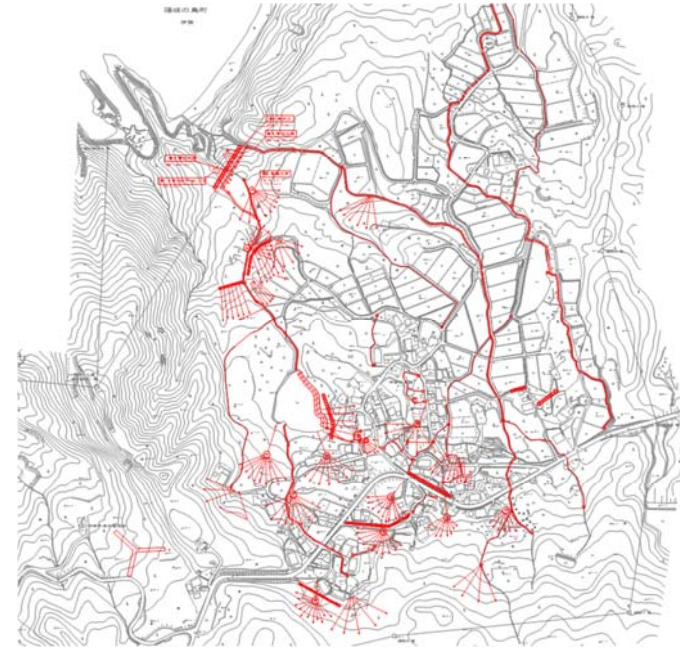
昭和54年横ボーリング状況(ロータリーボーリングマシン)



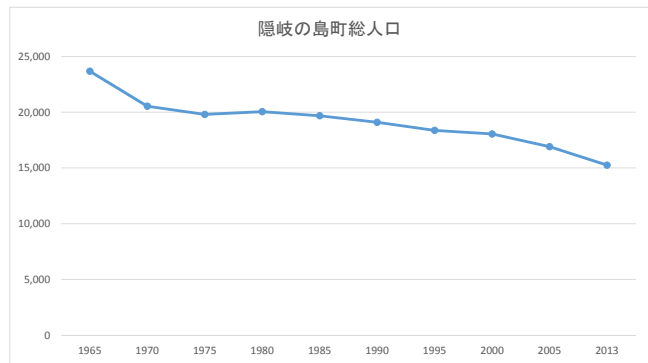
近年の横ボーリング状況(ロータリーパーカッション)



西村地区平面図



伊後地区平面図



50年の間に約10,000人の人口減少

各地すべり地区には地すべり委員が存在しているが、各地区とも高齢化と過疎化により、機能しなくなっている

過疎化と高齢化により農地は荒れ、さらに水路などの地すべり施設の維持管理が地区単位で出来なくなっている





今後、さらに過疎化が進行すると地すべり施設の存在さえも地域住民が知らない状況となる

地すべり施設も維持管理しなければ、機能を果たせず、地すべり活動が再度活発化する危険性がある

現在、各地すべり地区を島後地区として統合し、再度地すべり対策事業を行っている

対策事業を進めるにあたって、ジオパークを意識した対策を提案していきたい

「大峯山の大規模地すべり地形」はジオサイトに入っており、「大地の成り立ち」と「人の営み」を特徴として掲げる隠岐世界ジオパークとしては、「地すべりとの共生」について地域を整備していかなければならない

「大峯山の大規模地すべり地形」の見学コースに伊後、西村地区地すべりを盛り込み、地すべりとの戦いの歴史を皆様に知っていただくことが必要

ジオパークは登録されておしまいでなく、「保護と活用」が重要な課題である

隠岐の歴史とすばらしい自然環境を守っていくのが我々の責務であり、世界ジオパークに登録された今をきっかけとして地域住民に呼びかけていきたい



黒曜石の採掘場所





世界へ向けて！隠岐ジオパークが発進します！